中山間地域における高齢者の住み続けを希望する理由
ー石川県宝達志水町所司原を事例にー

富山大学 人文学部
人文地理学研究室　4年 松田真奈

Ⅰ はじめに①

2016年版厚生労働白書による
40歳以上の男女3000人へのアンケートでは、

老後や年を取った時に生活したい場所

・自宅(72.2%)

老後、希望する場所で生活するために必要なこととして

・医療機関が身近にあること(54.3%)
・介護保険のサービスが利用できること(38.2%)
・買い物をする店が近くにあること(34.0%)
・交通の便が良いこと(30.1%)

➡ 住み慣れた家で老後を過ごすために医療・介護サービスや生活利便性を重視している

Ⅰはじめに②

しかし　山村の高齢者は

・世帯構成、居住環境、交通事情などから、外出範囲や外出頻度に影響を受けている。(大杉1987)
・生活スタイルの変化による子ども世代の他地域への流出
・少子高齢化→行事の減少、住民同士の交流の希薄化

<u>高齢者にとって中山間地域での生活は不便ではないのか？</u>

<u>住み続けを希望する理由は何か？</u>

Ⅰ 先行研究①

住み続けの理由として、①個人の思い②社会的な規範の要素を指摘

①個人の思い：場所への愛着

Rowles(1980) アメリカの農山村の高齢者を対象とし、場所への愛着が住み続けを促すことを示す。
3つの内側性から愛着が形成され住み慣れた土地から離れがたい気持ちになる。

田原・神谷(2002) 岐阜県神岡町での調査から日本でもRowlesが提唱した内側性の概念が適用されうるとした。

➡ 愛着は個人と場所の関係を指し、住み続けに肯定的な意味

Ⅰ 先行研究②

②社会的な規範：日本のイエ意識

イエ意識…イエの存続・維持を重要とし、その消滅は避けなければならないとする考え。

野邊(2016) 愛着の他に家屋、畑、家産を守るというイエ制度の考えを持っていた。

田中(2020) 結婚を機に移住した女性が、夫の他界後も義理の家との関係しか残っていない土地に住み続ける理由を考察
→嫁ぎ先の家を守らなければいけないというイエ意識が大きく影響していた。

➡ 義務感、土地・場所に縛られているという否定的な意味

Ⅰ 目的

先行研究

自らの希望から住み続けを選択する

否定的な意味を持つイエ意識により住み続けを選択する

・イエ意識の持つ意味は否定的なものだけなのか？

・愛着とイエ意識の間の関係は？

目的

・生活に制約が多い中山間地域で高齢者が住み続けを希望する理由を明らかにする。高齢者の場所への愛着とイエ意識の関係を考察する

Ⅰ 仮説と分析の枠組み

仮説

・中山間地域での住み続けの理由は愛着、イエ意識が明確に分けられるものではなく、複雑に関係しているのではないか

分析の枠組み

高齢者の語りから愛着とイエ意識がみられるか検証

・愛着　身体的内側性…日常生活を繰り返し、物理的環境を把握している状態
社会的内側性…地域の高齢者の社会に帰属意識を持つ状態
自伝的内側性…これまでの人生と場所が深く結びついている状態

・イエ意識

Ⅱ 調査地域と対象

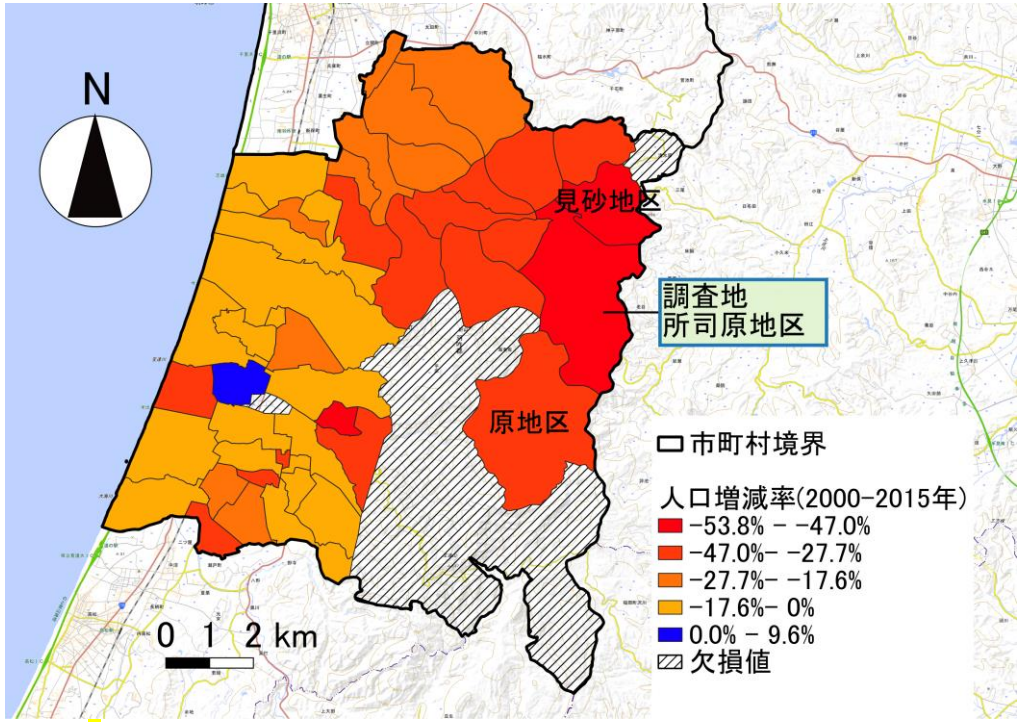

図2 石川県宝達志水町の人口増減率

国勢調査2015年

○調査地域

石川県　宝達志水町所司原

表1 調査地域の人口と高齢化率

	人口	高齢化率	15歳以下
所司原	80人	57.5%	6人

住民基本台帳(2021年7月31日時点)

聞取り内容

・所司原地区の高齢者5名→生活の様子、交流、地区への思い

・(社会福祉協議会→介護福祉サービスについて)

・(見砂、原の方→山間地域の生活について)

Ⅲ調査結果①　生活環境

町の介護福祉サービス

在宅介護サービスの実施、デイサービス、ヘルパーの利用の相談
コミュニティバスやデマンドタクシー
ボランティア、高齢者の交流の場

山間地域の生活について(所司原・見砂・原共通)

・車が生活に欠かせない
　車の運転が困難→子どもの支援、移動販売車やデマンドタクシー利用
・子どもと別居している高齢者が多い
・退職後も自立していて畑仕事などを行う
・自然災害が起こる(風雪による倒木での通行止めなど)

➡ 今後の生活の不安を話す高齢者もいるが現時点では不便なく生活

Ⅲ調査結果②

所司原について

・以前は村づくり活動が活発に行われていた

現在

・人口減少、高齢化で祭りや行事がなくなる→交流機会の減少
・個人的な交流や草刈り、ゴミ出しの当番の際に話をする
・毎年、左義長を実施
・民生委員が地区内で声掛けを行う
・→少子高齢化が進んでいるが地区内のつながりは維持されている

Ⅲ調査結果③

表2　所司原地区の調査者の基本属性

	性別	年齢	居住歴	世帯構成	1番近くに住む子	今後の予定
A氏	女性	65歳	45年	親と 本人夫婦	町内	自立
B氏	男性	79歳	79年	子と本人 夫婦の同居	同居	同居
C氏	女性	80歳	80年	夫婦	町内	自立
D氏	男性	91歳	91年	子夫婦と 同居	同居	同居
E氏	男性	71歳	60年	夫婦	隣の市	自立

聞き取り調査より作成：9月調査時点

Ⅲ調査結果④

表3　対象者別の聞き取り調査の結果

	愛着			イエ意識
調査対象者	身体的内側性	社会的内側性	自伝的内側性	
A氏(65歳・女性)	○	○		
B氏(79歳・男性)	○	○	○	○
C氏(80歳・女性)	○	○	○	○
D氏(91歳・男性)			○	○
E氏(71歳・男性)		○	○	○

聞き取り調査より作成

Ⅳ愛着について①

1.身体的内側性

C氏「右見ても左見ても、自分の行った覚えのある山、川、
全部地形が分かっているから、なるべくここからは
でたくない(笑)」

B氏「昔から住んでいて、全部分かっているからじゃないかな」

→住み続けることによって、家の周りの地形を把握したり、身の回りの場所を身近に感じている

Ⅳ愛着について②

2.社会的内側性

A氏「もう今じゃ、誰とでもしゃべれるし、(中略)
ここは別に住みやすくて、住めば都です(笑)」

C氏「うちはね、所司原(の人)であろうと、どこであろうと
常に常に、人が寄ってくる家」

E氏「○○(地区内での活動)というものに関わりながらやって
きていることによって,同年配の方,それから先輩の方,
そういう人たちとの人間関係がすごく深まったってこと」

→地域内の友人や人間関係が良好であり、住み続けを希望している

Ⅳ愛着について

3.自伝的内側性

B氏「昔は、こういう場所(集会所)に寄ってしゃべったり、遊んだりしてたけど、今はだんだん無くなったり、無くしたりしてる」

D氏「盆踊りも、その在所のキクザクラあるでしょ、ここに8月の15日16日、この所司原を中心にその周りの在所の人達が来る、(中略)この桜のここで、盆踊りして」

E氏「この風景の中で生活をしてみると、かつて小さいころに育った風景がそれとなく思い出されてきて、(中略)それが現実に目の前に重なってきて、非常にこう心豊かにしてくれるものがあるっていうかな」

→その場所から過去の経験が思い出され、場所と経験が結びついている。

Ⅳイエ意識

・E氏「初任の7年間いうたら、最高に楽しい職場やってね、環境もよかったし、(中略)でも、そこでいつまでも、じゃあなかってんな、それで次、所司原にそれから帰ってきて、ずーっと今までここにおる」

・ B氏「(今後の生活について)このまま、いないと、どこも行くとこないやろ」

お嫁に行った時のことについて

・C氏「親が行け言うたもんで、そんな頃はね、行く旦那の顔も知らなかった、(同じ在所の中でも)ちょっと離れているから」

→イエ、親、家業が居住地選択に影響

「家を守らなければならない」という否定的な意味ではなかった

Ⅴおわりに①

- 住み続けの理由として愛着とイエ意識の両方の要素がみられた。

愛着

対象者は「ここがいい」と積極的に住み続けを希望＝愛着の影響 ㊦

イエ意識

居住地選択にイエ意識や、家業、親といった要素が関係しているが家や土地に縛り付けられているという否定的な感情ではない。

→イエ意識はその地域に住むことを受け入れた結果であり、
住み続けることにより場所への愛着が形成されたのではないか

Ⅴおわりに②

先行研究(田中2020)との違いの要因

・対象者の属性→対象地で生まれ育ち、過ごしている高齢者が多い。

・地域内の関わりや交流→地域全体を肯定的に捉えている。

Rowles(1980)の調査内で…自伝的内側性がみられなかった高齢者

→「住民は好きだけど、町自体は好きではない」

Rowles(1980)は自伝的内側性がみられなかった高齢者は

・若い頃に過ごした土地に親近感を持っていた

・子ども時代をその土地で過ごしていない

・その土地で一生を過ごしていない　と指摘した

Ⅴおわりに③

考察

場所への愛着とイエ意識の関係は、その地域で過ごした時間の長さと地域内での経験により変容するのではないか。

(例)A氏→結婚を機に所司原へ移住

地域内での経験が過ごした時間の長さを補い、愛着が形成されたのでは

○高齢者の場所への愛着は生活の充実感など老後の生活にとって重要

今後の研究の蓄積が期待される

参考文献

大杉昇 1987.山村における高齢者の生活行動とその空間的パターン ―広島県戸河内町の事例―.地理科学 42(2) 82-95.

田中杏佳　2020. 日本における住み続けの理由について―結婚を機に移住した寡婦の高齢女性を事例として―. 富山大学人文地理学研究室卒業論文.

田原裕子・神谷浩夫 2002.高齢者の場所への愛着と内側性―岐阜県神岡町の事例―. 人文地理　54:209-230.

野邊政雄 2016.高齢女性が過疎山村に住み続ける理由の一考察―岡山県鏡野町富地域の事例―. 兵庫教育大学教育実践学論集 17:219-233.

石川県志雄町史編纂専門委員会 1974. 石川県志雄町史

所司原地区の歴史,村づくり活動についての資料(調査対象者による提供)

望月嵩・本村汎 1980.『現代家族の危機』有斐閣.

平成28年版厚生労働白書

https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/dl/1-02.pdf

参考文献

Rowles,G.D. 1980. Growing old “Inside”:Aging and attachment to place in an Appalachian community. Dantan N.and Lonhmann N.eds. Transitions of aging. Academic Press,153-170.